

14. 21-586
1200501162639

.21
36

×
複写



始



14.21
586

昭和二年五月

綿織物海外市場調査報告(一)

(代 謄 寫)

3F66

日本輸出綿織物同業組合聯合會

14.21-586



本調査は客夏商工省派遣旅商第一
班綿織物擔任者中村吉造氏の調査
報告に係るものなり

目次

一、新嘉坡

- (イ) 綿布の輸出額
- (ロ) 海峡殖民地輸入綿布國別統計
- (ハ) 新嘉坡に於ける綿布輸入業者
- (ニ) 主要輸入綿布及其用途
- (ホ) 新嘉坡を中心とする本邦綿布に就ての所見

盤谷

- (イ) 暹羅の貿易
- (ロ) 綿布の需給
- (ハ) 見本展示會
- (ニ) 現在の市況と將來取引上に關する希望

發行所寄贈本



三、佛領印度支那

- (イ) 地勢氣候人口
- (ロ) 主要種族の生活状態
- (ハ) 産業
- (ニ) 交通
- (ホ) 金融機關
- (ヘ) 貿易
- (ト) 關稅
- (チ) 綿布の需給状態
- (リ) 西貢及シヨロンに於ける見本市
- (ヌ) 河内—海防

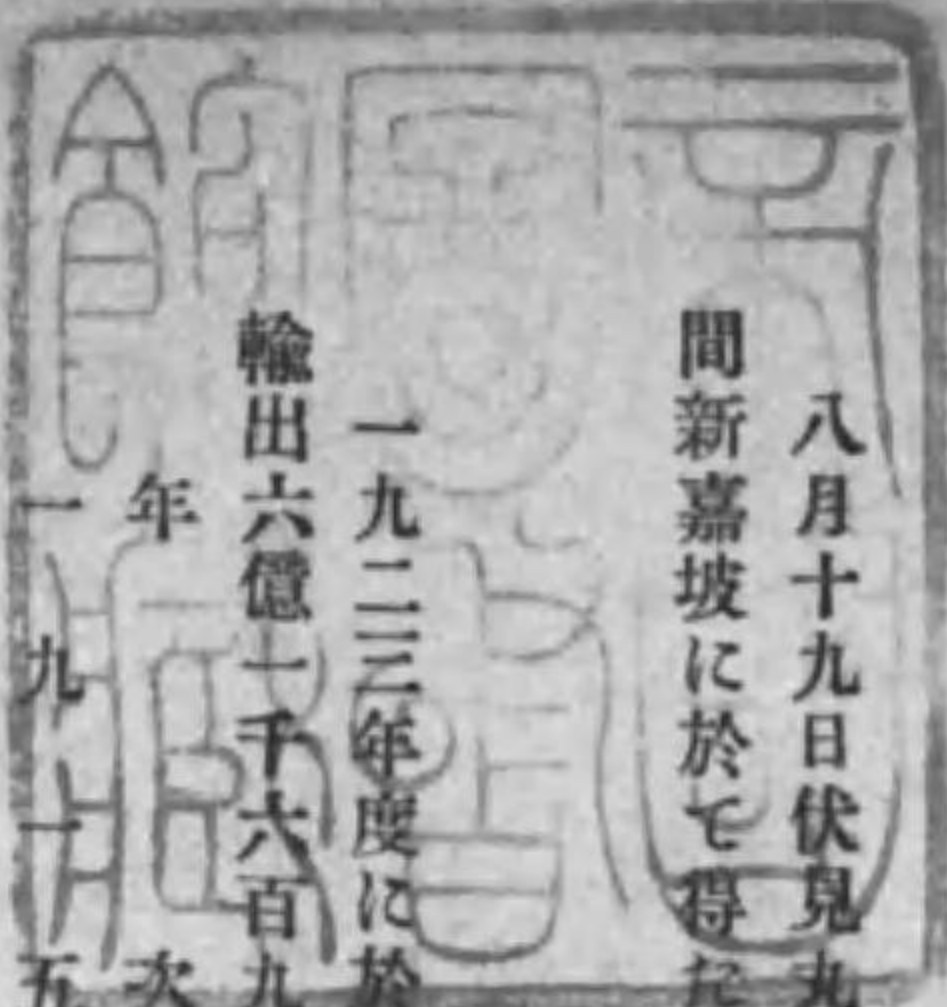
綿織物海外市場調査報告

旅商第一班綿織物
擔任者 中村吉造

一 新嘉坡

八月十九日伏見丸神戸解纜、九月二日午前十時新嘉坡着。九月五日英船コーラ丸にて盤谷に向けて出發するの
間新嘉坡に於て得たる綿布の需給概観に就て記述せむ。

一九二二年度に於ける英領馬來輸出入總額は十一億八千七百五十六萬弗に達し内輸入五億七千四百四十七萬弗、
輸出六億一千六百九萬弗にして最近十年間に於ける海峽殖民地の綿布輸出入額左の如し。



年次	輸入價額 (單位千弗)	輸出價額 (單位千弗)
一九二二	二四、四九〇	一八、〇一六
一九二一	二八、七四三	二〇、三七一
一九二〇	三八、三七三	二三、〇六二
一九一九	五四、二四五	二八、七五四
一九一八	四九、九六八	四八、三九七
一九一七	四七、〇二五	五三、四〇九
一九一六	四二、六七八	二五、〇三九

一九二二	四一、九七三	一八、九一二
一九二三	五二、二四七	二二、五八三
一九二四	四八、七五七	二二、七六五

依是觀之當地に於ける綿布の輸入は逐年増加し過去十年間に約二倍に達せり、而して馬來半島には織布工場絶無にして其需用せらるゝ綿布は總て之を輸入に仰ぎ其輸出せらるゝものはスマトラ島、ボルネオ島或は盤谷に再輸出せらる。

(口) 海峽殖民地輸入綿布國別統計 (一九二三年度) (單位 弗)

國名 (品名)	生地綿布	無地染綿布	捺染綿布
英國	一一、二八九、六〇一	五、六六七、九九〇	四、三三〇、七二二
香港	八二二、一四六	八七六、二六九	二八七、二八四
日本	六二九、六二〇	一、六六四、八四三	八八〇、九四〇
和蘭	六二〇、二四七	一〇七、三〇六	
英領印度	四一三、八三一	二四一、六四二	二八、九八三
支那	三五二、七四九	一、八五五、〇九四	一七五、六二五
伊太利		七八八、四九九	
瓜哇		一九二、七六七	四一三、七〇九

(ハ) 新嘉坡に於ける綿布輸入業者

新嘉坡に於ける綿布は第一支那人、第二印度人、第三日本人、第四歐米人の順位に依りて輸入せられ支那人及印度人は新嘉坡に於ける邦商又は歐米商人より六十日延にて仕入るゝと神戸に於ける支那人代理店又は支店

の手を経て買付するものとありて是等商人間代金の決済は總て六十日延にして現金制度に依るものなし従て當地に在りては遠く信用狀を日本に送りて買付するが如き店舗なし。

(ニ) 主要輸入綿布及其用途

- A 生地綿布 當地方に於て最も需用多き生地綿布は十三封度及十一封度粗布、細布、太綾及天竺なり粗布及天竺は生地の儘にて支那人及土人等の被服、一般婦人の下着、窓懸、寢具、敷物、枕又は椅子蓋等に使せられ細布、太綾は染色して衣服に使せらる。
 - B 無地染綿布 紅金巾、紅天竺、黒染天竺、黒染細布黒染ジーンズ、カーキ、ドリル等其主なるものにして紅天竺、紅金巾はタミル人の被服頭巻に使せらるゝの外支那婦人に需用せらる、黒天竺、黒細布亦衣服の外印度人の頭巻に用ひられ、黒ジーンズ、カーキ・ドリルは機械職工又は學生等の服地或は自動車蓋、日覆等に使せらる。
 - C 捺染綿布 更紗及捺染紡ジーンズ等其主なるものにして一般土人及支那人のシャツ及上衣に需用せらる。
 - D 縞綿布 縞三ツ綾、五彩布及大正布其主たるものにして上衣、ズボン及シャツ等に用ひらる。
- 而して本邦品中最勢力あるものは縞三綾にしてスマトラ及ボルネオ島に於ては邦品獨占の觀あり之に次ぐは黒染天竺、黒染細布にして染色比較的堅牢なりとて好評あり、更紗及捺染ジーンズは歐洲大戦中一時多額の輸入を見たる由なるも當時の邦品は染色堅牢ならざりし爲次第に其影を失し現在に在りては其輸入額僅少なり。其他色金巾、色縞子等弗々輸入せらるゝも其染色未だ歐洲品に比し遙に遜色ありて需用を喚起するに至らず、本邦製造家の研究を要すべきことなりと認む。

(ホ) 新嘉坡を中心とする本邦綿布に就ての所見

當市場に於ける我國輸出綿布の競争品は英國品、和蘭品上物及支那下級品なり、即ち上級品は英國品及和蘭

品に押され下級品は支那品と競争を餘儀なくせられ漸く之等各國品の中間に介在して需用せられつゝあり、英國品は其品質優秀なるの故を以て海峽殖民地は勿論全馬來の各地に於て歓迎せられつゝあるに反し邦品は新嘉坡及彼南に於て僅に需用あるに過ぎずして其大部分は暹羅、スマトラ、ボルネオ等に再輸出せられるべく我國より當市場に輸入せらるゝもの約九〇パーセントは再輸出せらるべし、就中黒染天竺及細布、粗布、天竺等は暹羅方面に、大正市、五彩布、縞、三綾等はスマトラ、ボルネオ方面に最も多く輸出せらるゝ。試に新嘉坡及彼南市街の綿布小賣商の店頭を一瞥するに本邦綿布は僅に綿ネール、縮縮及紡績の外稀に紅金巾粗布及生天竺を觀るのみにして其他の綿布は殆ど歐洲品なり、殊に新嘉坡に於ては我國綿布がハイ・ストリートを中心とする支那商の手に依りて各地に再輸出せらるゝを明にし得べし、即ち我國綿布の需用先は多く蘭領スマトラ、ボルネオ、暹羅等の奥地下級民にして都市又は之に隣接せる地域に在りては需用皆無の状態にあり、馬來半島にありても僅々東海岸の一部を除く外西海岸に於て極少額の特種品の需用あるに過ぎず。

支那製綿布も亦我國綿布と略同一の經路を辿りつゝありと雖新嘉坡市中小賣商の店頭支那製品を見ざるなく縞物又は格子等の十二碼物にて二弗内外にて小賣せらるゝを觀る、從て我國の大正布及五彩布は廣東布の比較的染色堅牢にして價格の低廉なるに及ばず新嘉坡に於ては僅々地方向として福龍南洋美人及三號等僅少の取引あるに過ぎず。

然れども我國縞三綾は其縞柄需用者の嗜好に投じ漸次需用を増加しつゝあるは洵に意を強ふするに足る、英國製縞綾、格子等は依然不評あり、近時マンチエスター捺染縞物の輸入増加しつゝありと雖下級民の需用を充たすには價格に於て到底我製品を凌駕し得ざるべし、即ち三十碼物一反に付マンチエスター品は九弗以上なるに我製品は七弗内外なり、縞柄の嗜好に就て觀るに流行の變遷に依り一律に謂ひ難きも太縞物は都市又は都市に隣接せる地方に於ける一般婦人の服地に用ひられ細縞物はシャツ、ズボン、土人上着等多く地方向に需用あり。之を要するに品質に於ては勿論英國品遙に優秀なるも價格の點に於ては本邦品却て需用に投じ易きを以て今

後一層加工費の節約に依り原價の遞減を圖り製品に一段の改良を加へ染料の選擇に依り染色の堅牢を期し以て本邦品の需用を益々喚起することに努めざるべからず。

二 盤 谷

九月五日午後四時新嘉坡出帆、八日午時盤谷安着、先發見本延着の爲滞在日數を豫定より八日間延長、二十五日正午ニーパー丸にてリアム港出發する迄十八日間滞留、其間調査の結果と見本市の成績とに付報告せむ。

(イ) 暹羅の貿易

一九二四—一九二五年輸入總額は一五三〇〇六、五八〇チカル、輸出總額一六五、九三一、四九六チカルにして一九二三—一九二四年日本よりの輸入四、三七五、八九〇チカル、日本への輸出四、四二一、三七〇チカルにして當國が例年輸出超過を辿れるは是れ一に農産物、材木等天然資源豊富なる割合に人口少き關係に依るもの、如し。

(ロ) 綿布の需給

暹羅は農業國にして工業と稱すべきもの皆無とも謂ふべく唯僅に盤谷市に於て綿絲四十番手を輸入して染色し力機械を以て土人用サロンを製造せるものと動力を用ひ綿絲布染色工場(支那商)同順昌經營(順昌經營)あるのみなるも何れも極めて小規模なり、從て國內消費の綿織物は殆ど全部を海外の輸入に需め再輸出するもの殆どなし、今一九二四—一九二五年の綿布輸入統計を觀るに左の如し。

Palais 1,141,840(單位チカル)

Sarongs 750,925

Prints & Chintzes 1,809,291

White shirting	3,096,273
Grey shirting	2,068,825
Voils	2,170,431
Grey sheeting T cloth all other cotton piece good	10,359,501
Cotton Blanket	1,578,785
Total	22,975,871

即ち一九二四—一九二五年綿布總輸入額は二二、九七五、八一チカルにして同期間總輸入額の約六分五厘にして同年日本より直接輸入せられたる綿布は二、五〇〇、〇〇〇チカルなるも本邦品にして香港、新嘉坡及上海より輸入せられたる本邦品は相當巨額に達すべし、而して當國へ輸入せらるる綿布の國別統計を缺き適確に之を報告すること能はざるも總額の約五十%は日本品にして殘餘五十%は英國、英領印度及支那品の輸入せらるるものと觀て大過なからむか、今左に主要なる輸入綿布に付其用途、需用期等を概説せん。

- A 粗布 36" x 40yd 主として生地の儘地方小賣商人に賣られ土人は之を購ひ染屋に托し又は自ら染色してバノグト稱する腰巻等に使用し年中需用あり多くは日本品又は支那品なり。
- B 生天竺 30" x 34yd 主として日本品菊印及G印最も普及し其他は未だ商標通らざるが如し、生地は夜具、染色したるものは土人兒服地に用ひらる。
- C 生細布 36" x 40yd 染色して土人小兒用バノグに使用せられ染色は多くは色なり。
- D 生並巾金巾 38" x 38yd 染色して土人バノグ使用せらる、年中需用ありバノグは染上げ巾三十六吋の無地染にして巾二十八吋及四十吋のものは極めて稀なり、從て價格に於て英國、印度及支那製品と競争し得るに於ては並巾金巾の暹羅輸出は甚有望なり。
- E 生七斤金巾 38" x 38yd 蚊帳用としてトンボ印七斤輸入せらる、盤谷に在りては年中蚊帳を使用し地方に於ては六、七、八月の兩期に需用あり晒上して輸出せば將來見込あるべし。

- F 擦染綿ネール 十月より翌年一月末迄土人上着用として需用あり當地問屋の輸入期は七、八、九月を最盛期とし年に柄に流行の變遷ありと雖殆ど日本品を以て獨占の状態に在るは聊か意を強くするに足る。
- G 縞リン 27"30yd 28" x 30yd 綿ネールの需用期を終る頃即ち十二、一、二月に涉り土人上衣用として需用あり、問屋の輸入期は十一月より翌年一月頃迄とす。
- H 晒金巾 四月より九月に涉りて其需用多く三、四、五月は其輸入の最盛期なり、其輸入額は當地輸入加工綿布の主位を占め三十六吋四十碼、三十六吋四十一碼物多く要は三十五吋以上のもので歓迎せられ普通の細布仕上三十四吋物は賣行不良、其用途は晒其儘にて或は黒又は雜色に染上げ被服地として其需用多く現在にては英國品に壓倒せられ居るもの、如し。
- I 更紗ポイル 地方の上流人及都會人の上衣として其需用多く其實需用期及輸入期は概ね晒金巾に同じく英國品を第一とし日本品之に亞て輸入せらる。
- J カーキ綾 礦物染料を使用せる堅牢品の需用あり、其需用期略ぼ縞リンに同じ。
- K 縞中形 携帶見本は京都製、鯨尺巾九寸、丈二丈八尺にして從來内地のみに需用せられ未だ曾て輸出せられたること絶無なるが商品の内外共通化を主張せる筆者として見本市の場合も多く此點に其宣傳を努めたるが本品に關し二十四吋二十四碼に製織すれば上衣用として二、三月の交需用あるが如し。
- L 染細布 34" x 41yd 土人バノグ用として黒染無地もの需用最も多く、中流以上の土人は七色の色變りバノグ七着を有し毎日異りたる色のバノグを着用する習慣あり、從て七色(別に黒を加へて八色)の無地染細布は年中需用あり。而して黒無地染細布は専ら下級土人のバノグに使用せらる、バノグ用綿布の染織上特に注意すべきは需用地が熱帯なるを以て強光線に依り染が焼け又は暹羅人は毎日バノグ着用の儘水浴する習慣あるを以て之れが爲褪色せざる様又之れが爲綿布の巾が收縮せざることを必須の件とすることは是なり。
- M 染金巾 36"38" 又は 40" x 40yd 土人バノグ用として需用多し。
- N 晒、染細綾及太綾 双童晒綾乃双童黒染細綾は其商標普及し各店舗其陳列を觀ざるなき状態なるも値段出

合はざる爲か一般の需用は却て下級品に向はるもの、如く従て此意味に於ては將來太鼓並水雷級の晒及染細綾有望にして太鼓は二十八吋又は三十吋四十碼物の黒染需用あり。

O 紅天竺又紅金巾 六封度紅天竺及四封度紅金巾三十八吋二十五碼物の需用多く主として小兒又は婦人の衣類に供用せられ本邦品のみなるも其額多からず。

P 綿毛布及綿シヨール 綿毛布は巾 46", 48", 50", 54", 60", 丈 71", 76", 78", 一個の入敷100 又は枚等孰れも就寝時と上掛用として歐洲品及日本品共に相當輸入せられ無地及模様物の二種あるも概して模様物の格安品歓迎せらるゝもの、如し、綿シヨールは主として二十九吋六十碼物三十打入のもの輸入せられ近時本邦品も亦市場に現はれ大柄花模様如き内地向柄其儘にて可なり。

Q 縞三綾 二十吋又は二十八吋三十碼物の輸入漸次増加の傾向あるも瓜哇の如く多額の輸入は望み難し白地及薄色地(又は桃色)の二種にして男子シャツ又はズボンに使用せらる。

其他五彩布の如き下級品は殆ど支那より輸入せられ邦品は其影をも認めず、捺染細綾(主として白地に縞物)更紗(單調なる柄もの)弗々輸入さるるも價格及染色堅牢の點に於て未だ縞リンの好評に及ばず。

シルケット物(五枚又は八枚縞子、六綾、網代等)の無地染及捺染物は十二月より一月頃迄冬物用として多少輸入せらるゝも熱帯地なると價格高き爲文化の低き土人の購買力に添はざるが如し。

要之生地綿布に於ては漸次歐洲品を驅逐し綿ネール及縞リンは邦品の獨占市場となれるも晒金巾、染金巾及更紗等は歐洲品に及ばざること遠く粗布、五彩布等は支那品格安にして邦品との値開き可なり大なり、然れども既に前に述べたるが如く盤谷は暹羅唯一の商業中心地にして其輸入綿布の一小部分がビルマに再輸出せらるるのみにして殆ど全部國內に於て消費せらるゝことは綿布輸出貿易上一種の興味をそゝり殊に從來本邦より直接航路開かれざりし爲香港又は新嘉坡にて積換せらるゝの不利ありたるも最近直接航路開かれたるのみならず共輸入稅率の如き從價三步に過ぎず加之其國民は一般に日本に對し好意を持ち居るを以て同國民の嗜好を察し不斷努力を吝まらるに於ては蓋し將來綿布の輸出先として相當の期待を繋ぎ得べし。

(ハ) 見本展示會

九月八日夜盤谷着の翌九日一行は領事館及日本人會を訪問、見本市開催に付其諒解と後援とを求め、亞て日支、印、歐各商館に往訪し、或は夫々此等關係者を招待して交驩、分送見本到着の關係上十五日より十九日迄サムエツグ街ブリン、ミー藥舖の三階に於て見本市を開催せり、見本市に關する一般外商の感想を付度するに

A 今次の見本市は從來東京或は大阪より來れる見本市に比し最有力なるものなることは之を諒とするも既に東京又は大阪の見本市が臨時開催せられたる後なるを以て見本市其ものに依りて刺戟さるゝこと薄し。

B 市況不振の爲人氣引立たず。見本市を觀覽するも見本を見たのみでは濟まぬ義理商内を餘儀なくせらるゝと謂ふ比較的道義的の觀念に支配せられ居ること。

D 大凡商談は秘密を貴ぶ、従て會場で反對商と席を同くしては商談意の如くならず。等思々の所見ありたるやに觀察せらる、然れども從來の見本市に比し其携帶見本の豊富なると交驩宣傳の功空しからず、或は見本展示會場に於て或は同業者戸別訪問の結果に於て互に隔意なき意見を交換するの機會を得たるのみならず當市滯留中左記賣約の成立したるは又同地在留の我官民諸氏の後援と同地同業者の好感を寄與せられたる結果なりと信ず。

群犬粗布	十五俵	1000縞リン	六十箱
日本フリスト製	五箱	象兔細布	四十俵
新モリス友禪	十俵	小巾晒	六十俵
玉獅子粗布	十箱	縞村商	五十箱
象兔黒細布	十俵	菊天竺	八十俵
猿獅子粗布	十俵	双童細綾晒	五十箱
天竺	三十俵		

開花 302 縞リン 三十箱
 更紗 五箱
 佳人晒金巾 十箱
 綿糸 四〇番 二十五駄
 合 計 三百九十一捆 此價額九萬三千圓

此機會に於て附記して將來旅商派遣の参考に資すべきことあり、即ち今次旅商として推薦せらるゝや特に所屬班の諒解を得て助手一名を帶同せるが當市に於ける經驗に徴するに助手の同行は洵に必要條件なることを體驗せり、見本展示中共會場に於ての商談成立は困難の事情伴ふものあり依て一人は見本展示場に在りて來客に應接し他の一人は市中得意先を訪問して見本市の觀覽を慫慂し或は商談を進める等手配するにあらざれば短時日の見本市をして充分効果あらしむる能はず。

(二) 現在の市況と將來取引上に關する希望

見本展示會閉鎖後は更に各得意先を戸別訪問し携帶見本及カタログを寄贈し重て種々意見を交換したるが
 (1) 當地綿布の最盛需要期は十月より十二月に至る冬物にして五、七月頃我國輸出業者と商談成立したる契約品が目下到着し弗々奥地輸送に多忙ならんとし恰も當今は冬物と春物との買付端境期なること (2) 香港及新嘉坡との爲替が對日爲替より有利なる爲香港及新嘉坡より買付け居ること (3) 香港苦力のストライキに依り荷物の水揚不能の品が香港及新嘉坡より續々入港し over stock になりたること (4) 昨年十一月暹羅國皇帝崩御後現皇帝の財政緊縮に關する大英斷は一時國內經濟を不況に導きたること等の爲綿布の賣行も非常に減少して相場下落し見本相場との出合悪化せり、然れども漸次春物需用期に入り (2) の Over stock も消化せられ (3) 來る十一月先帝諒闇明後は相當の需用擡頭するもの、如し、最近年々英國品の輸入減少し之に代て邦品の輸入増加しつゝあるの傾向あるを以て此際當國の嗜好に合致したる品を永久に其品質を落さざる様輸出に努むるに於ては當國民の日本人に對する好感と相俟て日本品の需用は頗る増加すべきを疑はず若夫れ金融機關に至りては政府に於て至急適當の施設あらんことを要望す。

終りに當市滞在中の所感として附記するの要あるは見本を展示して商談を進むる際其綿布の組織或は其染色積月等に付見本より異りたるもの、採算に屢々質問せられるが幸ひ吾々が服部商店員として製造及輸出版賣の經驗を併有するを以て日々本店と電報にて交換する内地の市況に依り直に採算して先方の希望する綿布の値段を示すことを得て商談を進むるに至りたる事例少なからざりし、若夫れ不幸にして吾々が單に輸出版賣のみに偏せるものなりせば此種の便宜を享有し難かりしと信ず、將來旅商選擇上當局の參考迄に特に附記す。
 九月二十五日盤谷出帆リアム、ブノンペンを経て十月一日夜西貢着十六日まで滞在、翌十七日西貢發、二十日海防着、二十三日迄の間海防、河内に於ける當用を辨じ此地に於ける視察及見本市は雲南訪問の後にするこゝとし廿四日雲南に向て河内出發、雲南の視察を終り十一月三日再び河内歸着、此機會に於て便宜上佛領印度支那の概況を前後一括報告し雲南事情は追報すること、せむ。

三 佛領印度支那

(イ) 地勢—氣候—人口

佛領印度支那は東京、ラオス、安南、カンボチャ及交趾支那の五州より成り西に暹羅、ビルマを控へ北支那大陸に接し東南は東京灣、支那海並に暹羅灣に面し其面積二十八萬六千平方哩なり。
 氣候概ね熱帶的にして氣溫高く湿度亦大、五月より十月迄を雨期とす。
 一九二一年度の調査に依れば其總人口一九〇〇〇千人にして其一平方浬の密度左の如し。

安南	四、九三三、〇〇〇人	密度(一平方浬)	三三人
カンボチャ州	二、四〇三、〇〇〇		一四
交趾支那	三、七九六、〇〇〇		五九

ラオス州	八一九、〇〇〇	四
東京州	六、八五〇、〇〇〇	五九
合計	一八、八〇一、〇〇〇	二六

更に各種族別人口を示せば

土着民	六六七、〇〇〇
安南人	一四、〇一一、〇〇〇
カンボチャ人	二、二七五、〇〇〇
タイ族	九七九、〇〇〇
支那人	二八四、〇〇〇
シヤム、マレー	六六、〇〇〇
混血人	一三三、〇〇〇
印度人	三、〇〇〇
其他	三六九、〇〇〇
合計	一八、八〇一、〇〇〇

(口) 主要種族の生活状態

一般に農業、漁業其他下級の勞働に従事し殆ど自給自足經濟の狀態にあり、土人は體軀矮小にして白色又は黒色の天竺或は金巾の上衣及股引を着け男子は陣笠様の帽子を、婦人は上流は絹、中下級は縞又は白無地綿布を冠り木履を穿ち頗る簡單なる堀立小屋に住み米を常食とせるが性温順にして神佛祖先崇敬の念厚し、最も廣く使用せらるゝ言語は安南語にして奥地に於ては國語以外のものは全然通用せず都會に在りては近來佛語大に普及し土人中之に巧なるもの少からず。



(ハ) 産業

米玉蜀黍、椰子、棕櫚、大豆、珈琲、茶、棉花、護謨、煙草等の農産物無煙炭煉炭、褐炭、亞鉛及錫等の鑛物を産するも製造工業としては未だ甚幼稚にして本領内の需要を充たすに足らず、然れども近年佛國人にして其天然資源の豊富にして領内工業の將來有望なるに着目し投資企業を試みるもの少からず、殊に東京地方は勞力、石炭、鐵の産出豊富なるを以て紡績織布、セメント、製茶、硝子、機械、製紙、精米、ビール等各種工場逐年盛ならむとしつゝあり、養蠶及絹織業も亦近年普及せむとするもの、如く殊に最近佛國人に依り西貢郊外に紡績工場建設中なるも一般に秘せられ其内容に付報告する能はず。

(ニ) 交通

佛領印度支那に旅行したるものが齊しく稱讚の辭を各まざるは各地道路の發達せることは是なり、曩に佛國が此地を領するや先づ道路の改良、新設に意を用ひ殊に一九一一年以來所謂交通政策に依り之が完成を急ぎつゝありたるが偶歐洲大戰に遭遇し鐵道材料の不足を來し鐵道敷設の豫定計畫繼續困難となりたるを以て從來鐵道敷設に傾注したる努力を道路方面に轉換したる結果遂に今日の完備を觀るに至りたるものにして此道路上に於ける輸送機關としては自働車の發達洵に顯著なるものあり。

鐵道は歐洲大戰以來佛本國の財政困難なる爲遅々として完成せず現在開通せるものは河内ナーチャム線(一四哩)河内ピン線(二〇二哩)ツーランードンハ線(一〇九哩)西貢ミト線(四三哩)西貢ナートラン線(二九〇哩)海防―雲南線(五三四哩)なり。

佛領印度支那に於て貿易港としての設備を有するは僅に西貢海防の二港にしてツーラン及ホンケーは未だ完全なる港を成さず而して我日本との交通は山下汽船の基隆、厦門、汕頭、香港經由の海防線、大阪商船の基隆、香港、西貢、盤谷新嘉坡經由のデリー線及佛國メサ、ジュリー、マリテムのマルセイユ發西貢、海防經由日本

航路の三線に依る定期船と此地に香港伸繼の不定期船の往復頻繁なり。

(ホ) 金融機關

佛領印度の貿易は其大部分が香港を伸繼地として行はれ佛本國及新嘉坡との貿易之に亞く状態なるを以て香港は爲替決済上の重要な金融市場なり、更に本領の貿易は例年輸出超過を示し而も其輸出額を左右するものは米なるを以て米の豊凶は直に輸出貿易上に反映し幸て對外金融に影響の及ぼすこと甚大なり。
金融機關として最重要なる地位を占むるものは總督府の機關銀行たる印度支那銀行にして銀行券の發行權を有し領内各重要都市及東洋各地に支店又は代理店を有す、以上の外西貢、海防河内には横濱止金、善原銀行、香港上海銀行及チャータード銀行等の支店あり。

(ハ) 貿易

佛領印度支那の輸入貿易中其一半は佛本國及其植民地より他の一半は香港、支那、印度等東洋各地よりせらるゝものにして今其主要なるものを擧ぐれば左の如し。

國名	一九二三年度	一九二四年度
佛本國	六六〇、六七〇	四七、一
同殖民地	五一、七三九	四、〇
香港	二四七、三四八	一七、八
支那	一二九、九六二	九、四
印度	六二、六三三	四、五
蘭領印度	六二、三二八	四、四
新嘉坡	四九、八八二	三、六

次に一九二四年度に於ける主要品別輸入額及割合を示せば左の如し

品名	輸入額	割合	品名	輸入額	割合
米	四一、二二〇	三、〇	石油及精油	九一、三〇一	六、六
日本國	二二、七六六	一、七	機械器具	六四、八八五	四、七
英國	二二、五六五	一、六	絹布	四八、四八六	三、五
瑞西	一一、三五八	〇、九	自動車	三五、一〇七	二、五
其他	二五、一二二	二、〇	小麦粉	三二、二六九	二、三
合計	一、三八八、五九三	一〇〇、〇	茶	二七、四二二	二、〇
綿布	一九八、二一九	一四、三	果物	二五、九五三	一、八
金屬製品	七〇、九九二	五、一	護謨製品	二四、二一八	一、七
棉花	五〇、七四二	三、六	武器軍用品	二〇、二三六	一、五
鐵及鍋	四五、〇六三	三、二	支那及日本製陶器	一七、八七七	一、三
紙卷煙草	三三、〇二〇	二、四	煉瓦	一五、四二四	一、一
化學製品	二九、七八一	二、一	加工皮革	一二、一二二	〇、九
綿絲	二七、一五七	一、九	支那素麵	一〇、四〇九	〇、七
葡萄酒	二四、六六一	一、八	合計	一、三八八、五九三	一〇〇、〇
糖	二三、一四八	一、七			
野菜	一九、二七二	一、四			
砂	一七、七八四	一、三			
黃麻	一二、八一七	〇、九			
衣服及織物	一〇、七一一	〇、八			
其他	三九九、六一七	二八、九			

輸出貿易に付觀察するに左表の如し。

(A) 主要國別輸出貿易額及其割合

國名	一九二四年度	一九二三年度
佛國及其植民地	三四六、六四五	二二六、八六一
香港	七四三、六四五	五一〇、六一九
新嘉坡	一五三、五三二	九六、六一九
比律賓	一二四、五一四	三七、〇二七
支那	一二一、五五七	一二九、三六九
日本	一〇八、九五五	四〇、四二九
日領印度	七四、五〇二	一四、九五三
蘭領印度	三八、三二五	三〇、一三八
歐米諸國	六〇、三二九	六八、六二八
其他	一、七七二、五四一	一、一五四、八一三
合計	一〇〇、〇	一〇〇、〇

(B) 主要品別輸出貿易額及割合(一九二四年度)

米及其製品	一、一〇五、三七一	六二、四%
石炭	七八、一五四	四、四%
胡椒	三九、九三二	二、三%
コブラ	一七、六九二	一、〇%
棉花	一五、〇〇二	〇、九%

以上佛領印度支那貿易の大勢を觀察したる吾々は其等對日貿易に付知らざるべからず、即ち佛領印度の對日貿易は食料品及工業原料を輸出し工産品を輸入するものにして今一九二四年の主要品別日貿易表を示せば左の如し。

品名	輸入	輸出
スチツクラック	一三、〇八一	〇、七
魚油	一一、一二六	〇、六
其他	二三七、一〇四	一、三
乾魚鹽	一二〇、三一	六、八
護謨	六〇、六九五	三、四
動物物	二〇、五六〇	一、一
亞鉛	一七、一八八	一、〇
赤砂	一三、〇九五	〇、七
生皮	一一、四二一	〇、六
粒玉蜀黍	一〇、八〇九	〇、六
合計	一、七七二、五四一	一〇〇、〇
米及其製品	六、八七八	八三、六〇九
石炭	三、〇八八	一六、三一六
生漆	二、七五〇	二、一九四
亞鉛	二、〇三五	一、八〇〇
黃麻	一、一八六	一、六三八
護謨	九五七	一、〇七〇

ゴム、合羽及び
ダイヤ、チユプ
鐵及銅製器具

七六九
五五六

以上の如く我國より佛領印度支那へ輸出せらるる、綿布は本土領綿布總輸入額の僅に二厘強に過ぎず若し夫れ佛領印度支那へ各國より綿布輸入額(一九二四年)を主要綿布別に表示せば左の如し。

平織及綾織生地綿布	二、九六〇、一〇〇法
晒綿布	一、〇二六、九〇〇
無地染綿布	三、八〇八、四〇〇
染絲を織込みたる綿布	一、五六一、五〇〇
捺染綿布	三、二七〇、五〇〇
紋織及光輝付綿布	一、〇九二、六〇〇

(ト) 關 稅

日本より佛領印度支那に輸入せらるる、商品の關稅は殆ど輸入防壓に等しき高率を課せらるる、ことは蓋し兩國貿易不振の一大障害なり、由來我國と佛領印度支那との貿易關係に付米、英、伊、蘭諸國の如く最惠國關稅率の適用を受くること能はず一般稅率に依る最高關稅を課せらるる、を以て本邦品は同地に於て佛本國品は勿論爾餘の最惠國關稅を課せらるる、諸國商品とは絶對に競争するを得ず即ち日本と本領土との地理的關係に於て他の諸國に比し我國が非常に優越の地位に在り今や直接航路も開け從て格安の供給を爲し得る状態に在り乍ら未だ本邦品の觀るべき輸入なきは全く此稅率關係に支配せらるるものと斷言して可なり。而して綿布に課せらるる、現行の最高關稅率は洵に複雑なるものにして法下落の場合に在りては往々隨時稅率を高くすること杯ありて綿布の貿易上蒙るべき迷惑名狀すべからざるものあり、今左に現反を輸入して調稅を受けたる稅率を示せば左の如し。

品名	現反重量	輸入稅率
菊天笠	6lbs(2.k718)	② 80fr × 4.5per 100kilos net
太鼓天笠	63/4lbk(3.k570)	"
三童兒天笠	6lbs(2k850)	"
寶球天笠	61/2lbs(2.k945)	"
品天笠	43/8lbs(2.140)	② 91fr × 4.5per 100kilos net
双童細綾	10lbs(4.k450)	② 80fr × 4.5per 100kilos net
双象細綾	111/2lbs(5.k700)	②
象鬼細布	111/2lbs(5.k500)	"
猿獅子粗布	13/7lbs(6.k160)	"
群犬粗布	11lbs(5.k150)	"
寶球綿ツ	(3.k620)	"
晒金巾		② 162.50fr × 5 + 30.70per 100kilos
紅天笠		② 158fr × 5 + 30.70per 100kilos
縮(白)		② 217fr × 5 + 30.70per 100kilos

以上の如く日本對佛領印度支那貿易の一大障害が繋りて此輸入稅の高率なることに歸着するを以て佛本國と我國との間に現存する協定稅率が其植民地たる佛領印度支那にも適用せらるる、様改訂せんことは從來屢々我官民に依りて提唱せられたることあるも其交渉は未だ具體化するに至らざりしが一九二四年メルラン總督の來朝越えて翌一九二五年山縣答禮大使一行は佛領印度支那に赴き親しく交歡を爲し非公式に通商條約改訂に關する意見を交換し兩國の親善關係を一層濃かならしむることに付種々協商を遂げられ同年八月兩國政府は公式に此問題に關し交渉を開始したるも其交渉は圓滑なる進捗を觀ざる折柄偶々佛本國政變の爲一層交渉の發展を阻止

せることは世間周知の事實なり、而も今日僅少なながらも日本綿布の輸入せらるゝあるは多くは香港、新嘉坡、上海等より再輸出せらるゝものなるが若し直接輸入せらるゝものありとせば恐く支那或は印度商人が佛國稅關吏と結託し高率關稅を免れ居るや必せり是れ吾々の滯在中屢々耳にせる所なり、吾々は此機會に於て我當局が一日も早く我國をして少くとも列國並に最惠國條約の適用を要求し彼我貿易上の障壁を撤し兩國の親善關係に竿頭一步を進むるの舉措に出でられむことを要望して止まざるものなり。

(チ) 綿布の需給状態

佛領印度支那に輸入せらるゝ綿布の八〇%乃至九〇%は佛本國よりの輸入に係り爾餘のものが香港、日本、和蘭等より輸入せらるゝに過ぎずして就中最も多く輸入せらるゝ綿布中生地綿布としては

粗	布	36" x 40yds x 13lbs
金	巾	38" x 38yds
金	巾	30" x 20yds
天	笠	30" x 24yds x 6lbs
"	"	30" x 24yds x 4 1/2lbs
"	"	28" x 24yds x 4lbs

等にして此等の生地綿布は一般土人が紺又は黒に手染して衣類に使用せり加工品中最も多く輸入せらるゝは晒金巾にして之に亞ぐを黒染金巾、紅天竺、紅金巾、カーキ綾、カーキ細綾、縮、綿ネール等の無地染とす。其他捺染の更紗、縮等は佛國人又は都會地の土人に需用せらるゝも其類極めて少く大部分の土人は生地綿布を購ひ手染して使用するか又は晒金巾又は無地染金巾を使用し一般に捺染柄物を使用すること少し蓋し土人文化の程度今尙ほ低き結果ならむも漸次其生活程度の向上に伴ひ捺染物其他高級品に對する需用増加するや必せり。

(リ) 西貢及シヨロンに於ける見本市

シヨロンは西貢を距る僅に一里、人口二十三萬、在留支那人最も多く宛然支那街の觀あり、西貢は人口十四萬、見本市は最初シヨロンにて開催せんとの議ありたるもシヨロンの有力華商は毎日西貢に來り日本領事館横町にて米其他の取引を爲すを以て日本市は先づ之を西貢に開くことに決し日本領事館の一室を借入れ八日より十三日迄開催、盤谷日本市の經驗に依り宣傳の肝要なることを認めたるを以て新聞の廣告、同業者の訪問は勿論特に領事館よりは佛商業會議所へ紹介の便宜を與へられ三井物産出張員亦其得意先へ宣傳の勞を執らるゝありて開會中は相當の入場者あり、在留佛人は家族連れにて來り鐘紡製友杯五禪六碼にても分賣せぬかと種々の質問ありたるも期待せる綿布商の來訪少く種々其原因を調査せるにシヨロン綿布商は組合を拵へ其組合員は佛本國品と海防附近に於て製造せらるゝものを主として取扱ひ佛人との間に久しきに互る取引關係あるのみならず佛商人の排日本品の宣傳は公然日本品の取扱に躊躇するもの、如く吾々一行が見本市開催中シヨロン中華總商會員を一夕招待せし關係上同會頭の懇望に依り十月十五日シヨロン總商會館に於て見本を展示せしに一般華商續々來觀茶話會の催などありて隔意なき懇談を交へたるが其際日本國旗の繫揚に付豫めシヨロン及西貢市長の諒解を求めたるが如き在留支那人が一行に對する誠意を表現せむことに努めたるの事實を認むると共に在留支那人の勢力可なり大なりと雖佛國官憲の高壓政策に甚しく遠慮せるの狀態を明に知ることを得べし、如此して佛國は殆ど體よき排日政策を執りつゝあり。

以上の状態なりしを以て西貢の見本市に依り僅々菊天竺二十五棚五千百圓の見本的賣買を觀たるに過ぎず。

(ヌ) 河内—海防

河内は佛領印度支那總督府の所在地にして貿易港海防を控へ其地理的關係恰も我東東と横濱との關係に酷似す、現に記述したるが如く一行は河内、海防の視察見本市の開催は西貢に亞で之を行ふ豫定なりしも見本通關

上の支障より雲南を先にしたる爲十一月三日雲南より歸着、四日領事館を訪問見本市の開催關係者との交驛等に付協議し亞で佛人商業會議所に會頭及書記長往訪、會頭の好意に依り會議所入口の大なる一室を借入るゝことに決定、五日には河内の東方約五十哩なる南定市に開催中の東京州物産見本市を観覽せしが此見本市は極めて幼稚にして土人の製作したる銅器、貝細工、絹織物、毛絲編物、陶器、靴、靴等を陳列即賣せるものにして其商品を一瞥して地方文化の程度極めて低きを知るを得たり、南定には佛人經營の東京紡績會社、絹絲會社、アルコール會社等ありて比較的工業盛なるが如し、人口約四萬其九〇%は安南人にして外國人としては少數の支那人及印度人居住し日本人は日章洋行黒島氏夫妻あるのみ。

東京紡績會社は本社を南定市に支店を海防に有し南定本社には紡機四萬臺、織機三百臺、海防支店には織機二百臺を運轉し綿絲は總て織布工場にて消化し縞毛布をも製造せる由なるが本社は佛人の經營なるを以て税金、運賃等に特種の待遇を受け莫大の利益を揚げつゝありと謂ふ。

南定は往古河内、海防以上の物資集散地ありしが海防は輸入港として河内は佛領印度の首府となり鐵道の開通に依り兩市は商業都市として南定の勢力を奪ひ南定は職工の集め易く勞銀の比較的安値なること等の爲工業地として新生面を開きつゝあり。

六、七日訪問、宣傳其他準備完く成りたるを以て八、九日豫定の河内佛人商業會議所に於て見本市開催、佛人、安南人、印度人及支那人等多數參觀したるも何分輸入税の高率なると其税額を調査することが非常に手間取る爲欲しくとも買ふて見ようとする人少かりしも日本綿布に就ては深き印象を與へたるもの、如し。

八日佛國人、安南人、十日支那人及在留邦人を招待交驛市中同業者を訪問海防に向て出發。

河内は人口凡十三萬人内佛人四千人、支那人三千人、印度人二千人其他は東京人と各國人にして我同胞は五十餘人在留せり、鐵道は北は雲南、東海防、南は南定を経てユエに通じ又一方紅河に依り海防、南定に水運の便あり、印度支那銀行、中法銀行代理店、香港上海銀行支店等あり。

東京省内にて消費せらるゝ綿布は (1) 土布及東京紡績製綿布 (2) 佛本國より輸入せらるゝ生地及加工綿

布大部分を占め (3) 日本品、英國品、和蘭品及支那品等は極めて一小部分に過ぎず (1) 土布とは英領印度、支那及日本より輸入せらるゝ 20s 30s を以て土人が手織りしたるものにして巾九寸五分乃至一尺長十二メートル(不定)見當のもの多し、土人は此生木綿をクナオと稱する植物の根より採收したる染料を以て茶褐色に染め老幼男女共に周年上衣として着用す、土人は又蚊帳生地をも製織せり、土布用原絲として日本よりは黃戎 20s 及賣來最も多く輸入せられ其銘は土人間にも熟知せらるゝ、東京紡製の綿布は太絲使用のもの、みなるが各綿布問屋の注文に依りて製織し問屋の便利を圖りつゝあり、十二封度級の粗布、十一封度級の太綾、五封度乃至六封度級の天竺を主として製織しつゝあるも棉精多く粗製品たるを免れず (2) 佛國製品は佛國輸入者のマークを現反に押捺して販賣せるが就中晒金巾最も多し、(3) 日、英、蘭、支製品中輸入日本品は黒光輝五枚朱子無地染綿ネール、晒細綾、カーキ綾及縮等なり。

河内に於ける綿布商は佛國人、印度人、安南人及支那人にして日本人としては雜貨商が至極少數の浴衣地及モスリン等を日本服に仕立て佛人用寝巻として販賣するを觀るのみ、而して直接外國より輸入するは殆ど佛人のみにして唯一二安南人又は支那人が佛本國或は香港より仕入するのみ、大部分の印度人、安南人及支那人が佛輸入商より買入れ之を卸又は小賣するものにして就中印度商人の數最も多く且勢力あり之に亞ぐは安南人にして支那人綿布商は其數少く勢力亦認るに足らず、要之當地地方への日本綿布としては土人の製織し能はざる又佛國品と競争し得る無地及捺染綿縮、無地及捺染綿ネール、無地捺染五枚縞子等を始め更紗類の輸出に努むるの外なく而も税率は總て從量税なるを以て目付の輕きものを主とすること肝要なり。

十一月十二日海防着、在留日本人の出迎を受け石山ホテルに投宿、午後商業會議所に見本陳列、菅河内領事は見本市開催に付眞に容易ならざる盡力をされ河内市に在りては勿論態々海防迄出張、場所の借入、佛人、支那人等の招待等奔走至らざるなく殊に同領事は昨年十一月名古屋商業會議所に參られたる際面識あり諸事都合に運び、十二日夕商業會議所正副會頭、評議員、書記長其他當地一流の佛商人十五名を晚餐會に招待交驛する所あり、十三日見本市を開催佛人、安南人及支那人の來觀者可なり多かりき。

3F66

海防は東京省の東部紅河の河口に位し佛領印度中西貢に亞ぐの良港にして本領北部は勿論雲南省の出入物資は悉く此港より之を吞吐す、人口約六萬、東京紡績工場、セメント會社、製氷會社等あり、鐵路河内、雲南に通じチャタード銀行、印那支那銀行、香港上海銀行及華南銀行支店あり、大阪商船臺灣、海防間定期船二週間に一回入港するの外、英、佛船等香港へは二日目に便船あり、其需要せらるゝ綿布の種類及綿布商の狀態等河内と異らざるを以て之を省略す。

終